



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ加盟各社

御中

令和 8 年 9 月 18 日

岡 山 大 学

岡山大学、AMED「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」に採択 ～デジタル・ロボット技術を活用した医療機器イノベーションを推進～

◆発表のポイント

- ・岡山大学が中心となって推進する「BIZEN エコシステム構築による産業振興拠点形成」※1) が、AMED オープンイノベーションコア拠点（デジタル・ロボット技術枠）に採択されました。
- ・BIZEN は「地域のオープンイノベーションエコシステムの中核として発展し、医療機器開発を通じて革新的イノベーションを創り、人々の Well-being に貢献する」というビジョンの実現を目指します。
- ・AI・デジタルヘルス・プログラム医療機器（SaMD）・ロボティクスを核とするデジタル・ロボット技術分野の開発支援基盤強化と国内外ネットワークとの連携を通じて、日本発の革新的医療機器の創出と社会実装を加速します。

岡山大学学術研究院医療開発領域（岡山大学病院・新医療研究開発センター）の櫻井淳教授および同次世代医療機器開発部の内田大輔准教授（特任）らが中心となり推進する「BIZEN エコシステム構築による産業振興拠点形成」が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の令和 8 年度「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」において、分野 3「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点（オープンイノベーションコア拠点）」の「3.2 デジタル・ロボット技術枠」に採択されました。

本事業は令和 6 年度から三期連続での採択で、今年度は拠点の中でも中心的な役割を担う「コア拠点」の 1 つに選ばれました。

本事業では、岡山大学を代表機関、大原記念倉敷中央医療機構を分担機関として、岡山県の 2 つの病院がタッグを組みます。これにより医療機器開発支援基盤を強化し、わが国発の AI・デジタルヘルス・プログラム医療機器（SaMD）・ロボティクスを核とするデジタル・ロボット技術分野の革新的医療機器創出を牽引する拠点の形成を目指します。

◆研究者からのひとこと

BIZEN は、地域のオープンイノベーションエコシステムの中核として発展し、医療機器開発を通じて革新的イノベーションを創出することで、人々の Well-being に貢献することを目指しています。今回の採択を契機に、デジタル・ロボット技術分野の支援機能をさらに強化し、地域から全国、そして世界へとつながる医療機器開発エコシステムの実現に取り組んでまいります。



櫻井教授
新医療研究開発センター
副センター長



PRESS RELEASE

■発表内容

岡山大学は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の令和８年度「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」において、櫻井教授を研究開発代表者とする課題「BIZEN エコシステム構築による産業振興拠点形成」が、分野３「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点（オープンイノベーションコア拠点）3.2 デジタル・ロボット技術枠」に採択されました。デジタル・ロボット技術枠では全国で唯一の採択課題です。

本事業では、岡山大学および大原記念倉敷中央医療機構を中心に、これまで構築してきた BIZEN を発展させ、AI・デジタルヘルス・SaMD・ロボティクスを活用したデジタル・ロボット技術分野の医療機器開発支援体制を強化します。病院インフラを活用したニーズ探索から事業化、さらには海外展開までを見据えた一気通貫の伴走支援を実施し、地域発のイノベーション創出と日本の医療機器産業の発展に貢献することを目指します。

<これまでの活動>

BIZEN は、岡山大学病院を中心として、医療現場、企業、アカデミア、行政が連携する医療機器開発エコシステムの構築を進めてきました。病院インフラを活用したニーズ探索・課題抽出から、研究開発、試作評価、事業化までを見据えた伴走支援を行うとともに、医療機器開発人材の育成や産学官連携の推進に取り組んできました。

近年は、AI・デジタルヘルス・プログラム医療機器（SaMD ; Software as a Medical Device）・ロボティクス分野の発展を見据え、医用データの利活用を支えるデータ管理プロセスの整備や、デジタル医療機器開発支援体制の強化を推進しています。また、国内外の支援機関や開発拠点との連携を拡大し、地域発イノベーションを世界へ展開するための基盤づくりを進めています。

主な取り組み（これまで）

- オープンイノベーションプラットフォーム「BIZEN」の構築
- 病院インフラを活用した医療機器開発の一気通貫支援
- BIZEN ラボ・BIZEN プログラムによる伴走支援体制の整備
- デジタルヘルス・SaMD 開発支援基盤の強化
- 国内外ネットワークを活用した人材育成・事業化支援

これらの活動を通じて、BIZEN は地域の医療機器開発を支える拠点として機能するとともに、デジタルヘルスや SaMD 分野における支援基盤の整備を進め、国内外の連携ネットワークを活用した医療機器イノベーション創出に取り組んできました。



PRESS RELEASE

<研究計画の概要>

本事業では、BIZEN がこれまで構築してきた医療機器開発支援基盤を発展させ、デジタル・ロボット技術分野を活用した医療機器開発を推進するオープンイノベーションコア拠点の形成を目指します。岡山大学および大原記念倉敷中央医療機構を中心に、病院インフラを活用したニーズ探索から事業化、海外展開までを見据えた一気通貫の支援体制を強化するとともに、全国の医療機器開発支援拠点との連携を通じて、日本発の医療機器イノベーション創出を加速します。

主な取り組み（今後）

- デジタル・ロボット技術開発支援機能の強化
- Production Labo 整備による試作・モックアップ支援の拡充
- AI・デジタルヘルス・SaMD・ロボティクスを活用した開発支援の推進
- ニーズ探索から事業化までの伴走支援の高度化
- 全国拠点との連携ネットワーク強化
- 海外展開支援の推進

<期待される成果>

本事業を通じて、デジタル・ロボット技術分野を活用した医療機器開発案件の創出・支援を拡大するとともに、地域発のイノベーションを全国へ、さらに世界へと展開するエコシステムを構築します。また、デジタル・ロボット技術開発支援基盤と国際連携基盤を一体的に強化することで、持続的に革新的医療機器を創出できる産業振興拠点の実現を目指します。



図 1 BIZEN エコシステムの全体像



PRESS RELEASE

<J-PEAKS との連携>

本学は、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」に採択されており、本事業との戦略的連携を通じて、医療・ヘルスケア分野における研究成果の社会実装、新産業創出、国際展開を一層推進します。

■補足・用語説明

1) BIZEN (Business Innovation Zone for ENtrepreneurship) :

岡山大学が地域や企業、自治体、医療機関などと連携しながら、新たな価値の創出や社会課題の解決を目指す共創拠点です。研究・教育の成果を社会につなげるため、産学官連携や地域との交流、人材育成に取り組むとともに、医療・ヘルスケア分野をはじめとする研究成果の社会実装を支援しています。さまざまな分野の人や組織が集い、対話や交流を通じて、新しいアイデアや取り組みを生み出す場となっています。

【BIZEN 公式サイト】

BIZEN の最新の取り組みは、公式ホームページにてご紹介しています。

➤ BIZEN 公式サイト : <https://mwjp2.ccsv.okayama-u.ac.jp/bizen/>

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医療開発領域 准教授 (特任)
岡山大学病院 新医療研究開発センター
次世代医療機器開発部
部長 内田 大輔
(電話番号) 086-235-6979



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

